



# 平成31年2月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

平成31年1月11日

上場会社名 株式会社 柿安本店

上場取引所 東

コード番号 2294 URL <https://www.kakiyasuhonten.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 赤塚 保正

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 赤塚 義弘

TEL 0594-23-5500

四半期報告書提出予定日 平成31年1月11日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成31年2月期第3四半期の業績(平成30年3月1日～平成30年11月30日)

### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年2月期第3四半期	31,901		1,254		1,306		1,058	
30年2月期第3四半期								

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年2月期第3四半期	101.16	
30年2月期第3四半期		

(注) 当社は、平成30年2月期第3四半期は連結業績を開示しておりましたが、第2四半期より非連結での業績を開示しております。そのため、平成30年2月期第3四半期の実績及び対前年同四半期増減率は記載しておりません。

### (2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%		
31年2月期第3四半期	19,248		13,975		72.6	
30年2月期	18,356		13,508		73.6	

(参考) 自己資本 31年2月期第3四半期 13,975百万円 30年2月期 13,508百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
30年2月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
31年2月期		0.00		55.00	55.00
31年2月期(予想)				55.00	55.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成31年2月期の業績予想(平成30年3月1日～平成31年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	46,000		2,700		2,750		1,970		188.19

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成30年6月8日付で完全子会社である柿安グルメフーズ株式会社を吸収合併いたしました。当合併により連結子会社はなくなることから、平成31年2月期(通期)は個別決算による開示となりますが、通期業績予想の対前期増減率は、比較対象が異なるため、記載しておりません。

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年2月期3Q	12,446,700 株	30年2月期	12,446,700 株
期末自己株式数	31年2月期3Q	1,978,768 株	30年2月期	1,978,696 株
期中平均株式数(四半期累計)	31年2月期3Q	10,467,975 株	30年2月期3Q	10,698,284 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
第3四半期累計期間 .....	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(セグメント情報等) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、好調な企業収益に支えられ、雇用・所得環境の改善により、個人消費の一部に持ち直しがみられるなど、緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、海外の貿易摩擦の拡大に伴う世界経済の下振れ懸念、相次ぐ自然災害の影響や消費者の節約志向の高まりなど、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような環境の中、当社は、「肉の老舗」としての商品力をより強固にするため、「肉」関連業態のフードコート型レストランの出店強化を行いました。牛肉の丼料理を提供する「柿安 Meat Express」を10店、また、さらなる相乗効果を発揮すべく、新たな業態として鶏料理を提供する「奇跡の親子丼」を4店出店いたしました。

出退店・改装につきましては、「東武池袋精肉店」をはじめ計46店を出店するとともに、8店の改装、9店の退店を行いました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の売上高は31,901百万円、営業利益は1,254百万円、経常利益は1,306百万円、四半期純利益は1,058百万円となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### (a) 精肉事業

精肉事業につきましては、ご好評いただいている「肉の日」企画による販売拡大の取り組みの他、お求めやすい価格帯の商品や基幹商品の商品力向上に努めました。

出退店・改装につきましては、アクティブG店、東武百貨店池袋店の2店を出店した他、北千住マルイ店をはじめ3店を改装した一方、桔梗が丘店1店を退店いたしました。

この結果、当事業の売上高は10,732百万円、セグメント利益は989百万円となりました。

#### (b) 惣菜事業

惣菜事業につきましては、贅沢でボリューム満点の『フカヒレあんといたく 黒毛和牛 すき焼弁当』の他、期間限定で『タコとセロリとタピオカのマリネ』をご提供するなど、企画商品の充実にも注力いたしました。

出退店・改装につきましては、ラゾーナ川崎ダイニング他、計5店を出店、2店を改装いたしました。

この結果、当事業の売上高は10,045百万円、セグメント利益は776百万円となりました。

#### (c) 和菓子事業

和菓子事業につきましては、定番のいちご大福などの季節のアイテムによる販売拡大を図った他、価格を含めた商品の見直しを行いました。

出退店・改装につきましては、計23店を出店するとともに、2店の改装を行いました。一方、4店を退店いたしました。

この結果、当事業の売上高は5,403百万円、セグメント利益は172百万円となりました。

#### (d) レストラン事業

レストラン事業につきましては、フードコート業態の「柿安 Meat Express」、鶏料理を提供する新業態店「奇跡の親子丼」を合わせて計14店出店し、「肉」関連業態の業容拡大に努めました。

また、厳選された松阪牛を四季折々の移ろいを感じる静謐な和の空間でご提供する「柿安 花れ」を六本木ヒルズに、しゃぶしゃぶとビュッフェを融合した「柿安 Meat Buffet」をテラスモール湘南に出店いたしました。

出退店・改装につきましては、「柿安 Meat Express」を中心に計16店を出店するとともに1店を改装、一方1店を退店いたしました。

この結果、当事業の売上高は4,031百万円、セグメント利益は31百万円となりました。

#### (e) 食品事業

食品事業につきましては、季節限定のしぐれ煮シリーズに新たに『山椒入り 牛肉秋しぐれ』を加えるなど、日常使いアイテムの拡充に努めました。

この結果、当事業の売上高は1,688百万円、セグメント利益は264百万円となりました。

なお、前第3四半期累計期間は四半期連結財務諸表を作成し、四半期財務諸表を作成していないため、前年同四半期との比較は行っておりません。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期会計期間末における資産合計は、前事業年度末に比べ892百万円増加し、19,248百万円となりました。

流動資産は237百万円増加し、10,661百万円となりました。主な要因は、売掛金の増加721百万円及び仕掛品の増加131百万円並びに商品及び製品の増加94百万円と現金及び預金の減少739百万円等であります。固定資産は654百万円増加し、8,587百万円となりました。主な要因は、建物の増加389百万円及び差入保証金の増加164百万円並びに工具、器具及び備品の増加104百万円等であります。

当第3四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末に比べ426百万円増加し、5,273百万円となりました。

流動負債は325百万円増加し、4,587百万円となりました。主な要因は、買掛金の増加481百万円及び未払金の増加208百万円並びに賞与引当金の増加207百万円と未払法人税等の減少511百万円等であります。固定負債は100百万円増加し、685百万円となりました。主な要因は、資産除去債務の増加102百万円等であります。

当第3四半期会計期間末における純資産合計は、前事業年度末に比べ466百万円増加し、13,975百万円となりました。主な要因は、利益剰余金の増加483百万円等であります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成30年7月11日に発表いたしました「特別利益(抱合せ株式消滅差益)の発生並びに非連結決算への移行に伴う平成31年2月期個別業績予想に関するお知らせ」に記載しております予想から変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成30年2月28日)	当第3四半期会計期間 (平成30年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,721	5,981
売掛金	2,726	3,448
商品及び製品	336	430
仕掛品	211	343
原材料及び貯蔵品	190	190
その他	236	267
流動資産合計	10,423	10,661
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	3,111	3,500
土地	2,255	2,224
その他（純額）	738	852
有形固定資産合計	6,104	6,578
無形固定資産	224	249
投資その他の資産	1,603	1,759
固定資産合計	7,932	8,587
資産合計	18,356	19,248
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,291	1,773
未払法人税等	642	130
賞与引当金	367	574
役員賞与引当金	39	29
その他	1,921	2,079
流動負債合計	4,262	4,587
固定負債		
資産除去債務	508	611
その他	76	74
固定負債合計	585	685
負債合計	4,847	5,273

（単位：百万円）

	前事業年度 (平成30年2月28日)	当第3四半期会計期間 (平成30年11月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,269	1,269
資本剰余金	1,074	1,074
利益剰余金	14,685	15,168
自己株式	△3,542	△3,542
株主資本合計	13,486	13,969
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	21	5
評価・換算差額等合計	21	5
純資産合計	13,508	13,975
負債純資産合計	18,356	19,248

（2）四半期損益計算書  
（第3四半期累計期間）

（単位：百万円）

	当第3四半期累計期間 （自平成30年3月1日 至平成30年11月30日）
売上高	31,901
売上原価	16,143
売上総利益	15,757
販売費及び一般管理費	14,502
営業利益	1,254
営業外収益	
受取利息	0
受取配当金	1
工事負担金等受入額	29
受取補償金	13
その他	23
営業外収益合計	68
営業外費用	
支払利息	0
損害金	11
その他	5
営業外費用合計	17
経常利益	1,306
特別利益	
固定資産売却益	13
抱合せ株式消滅差益	479
特別利益合計	492
特別損失	
固定資産除売却損	50
減損損失	182
その他	59
特別損失合計	293
税引前四半期純利益	1,505
法人税、住民税及び事業税	522
法人税等調整額	△76
法人税等合計	446
四半期純利益	1,058

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第3四半期累計期間（自平成30年3月1日至平成30年11月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	10,732	10,045	5,403	4,031	1,688	31,901	—	31,901	—	31,901
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	1,080	14	37	17	746	1,896	—	1,896	△1,896	—
計	11,813	10,060	5,440	4,049	2,434	33,798	—	33,798	△1,896	31,901
セグメント利益	989	776	172	31	264	2,235	—	2,235	△980	1,254

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等でありま  
す。

2. セグメント利益の調整額△980百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,012  
百万円及びその他調整額32百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属  
しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「レストラン事業」及び「和菓子事業」において、店舗設備の減損損失をそれぞれ178百万円、4百万円  
計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期累計期間において、182百万円であります。